

Clinical Question 1

橈骨遠位端骨折後の保存療法における患者に対して、ハンドセラピーを行うことは行わない場合に比べて推奨されるか？

推奨文 橈骨遠位端骨折後の保存療法における患者に対して、ハンドセラピーを行うことを提案する。

推奨の強さ 弱い

エビデンスの確実性 非常に弱い (D)

1. 重要臨床課題の確認

橈骨遠位端骨折後の保存療法は、高齢者で多く用いられる治療法であり、外固定期間は4~6週であることが多い。外固定期間中や固定除去後にはハンドセラピーが実施されることがあるが、その効果に関してのエビデンスは十分とは言えない。本CQでは橈骨遠位端骨折後の保存療法における患者に対してのハンドセラピーの有用性を検討する。

2. エビデンス評価

・ 検索

系統的文献検索を行い、ランダム化比較試験6件、観察研究を1件採用した。

・ 評価

Filipovaら¹⁾は、外固定後にハンドセラピー+理学療法を併用した介入群30例と、理学療法を単独で実施した対照群27例について比較した結果、ハンドセラピー終了時点で、介入群の握力が有意に高く、終了後1か月の時点でも介入群で握力が有意に高かったと報告した。

Bruderら²⁾は外固定後にセラピストによる7項目の運動指導、15項目のアドバイスを3回実施した15名の介入群と、アドバイスのみを3回実施した10名の対照群を比較したところ、両群とも関節可動域、握力、Patient-Rated Wrist Evaluation (以下、PRWE)、The Disability of the Arm, Shoulder, and Hand (以下、DASH)は同程度の改善であった。

Gutierrezら³⁾はハンドセラピーを行う介入群37名と、ホームエクササイズのみを行う対照群37名を比較したところ、介入群がハンドセラピー実施後6週、6か月時点で有意に関節可動域、握力、PRWE、疼痛が改善した。

Nguyenら⁴⁾は外固定期間中に等尺性収縮やボールを使用した握力訓練を行う介入群と、関節可動域訓練のみを行う対照群を比較したところ、介入群がハンドセラピー実施後6週、12週時点で有意に握力と疼痛が改善した。

・ 統合

橈骨遠位端骨折の保存治療に対して、運動療法を行わない対照群を設けた報告は少なく、厳密に運動療法の有用性を示すことはできない。今回の採用論文では、運動療法の効果を直接的に示す論文が1件しか該当しなかった。その他の研究では介入方法の違いや、対照群や介入群が異なり、非直接性（研究から得られた結果がCQや臨床状況・集団・条件へ適応しうる程度）があった。また、報告によって結果に異質性（研究間の結果にばらつき）があり、非一貫性があると判断した。よって、エビデンスの確実性はD（非常に弱い）とした。

3. 総合評価

橈骨遠位端骨折後の保存療法における患者に対して、ハンドセラピーを行うことは、行わない場合に比べて、関節可動域、疼痛、PRWE、DASHの効果はあるものの、ハンドセラピー未実施患者との比較は行われておらず、効果は限定的と考えられる。研究により対照および介入群が大きく異なるため、深刻な非直接性があると判断した。また、報告によって結果に異質性があるため非一貫性があると判断し、本CQは提案（弱い推奨）とした。

文献

1. Filipova V, Lonžarić D, et al. Efficacy of combined physical and occupational therapy in patients with conservatively treated distal radius fracture: randomized controlled trial. *Wien Klin Wochenschr* 127: 282-287, 2015.
2. Bruder AM, Shields N, et al. A progressive exercise and structured advice program does not improve activity more than structured advice alone following a distal radial fracture: a multi-centre, randomised trial. *J Physiother* 62: 145-152, 2016.
3. Gutierrez EH, David Rubio OD, et al. Supervised physical therapy vs home exercise program for patients with distal radius fracture: A single-blind randomized clinical study. *J Hand Ther* 30: 242-252, 2017.
4. Nguyen A, Vather M, et al. Does a hand strength-focused exercise program improve grip strength in older patients with wrist fractures managed nonoperatively? A randomized controlled trial. *Am J Phys Med Rehabil* 99: 285-290, 2020.